

## 佳作

### 自動販売機攻略

金城 三二

バイク事故でN君が入院している間約二ヶ月半、我々はほぼ毎日のように病室の彼を見舞った。病院の入り口を入れて右側に二階へ上がる階段があった。その階段の下に幅四〇センチ、長さ六〇センチ、高さ三〇センチの長方形で箱形のコカコーラの入った自動販売機があった。自動販売機といても精巧なものではなく簡単な構造であった。

ふたを開けると中には冷水が満たされていて、その冷水に浸って冷やさ

れた数十本のコーラが入っていた。横向きに三本のレールがあつて、そのレールにコーラのビンの首が挟まって吊り下げられている。一本のレールに一〇本位のコーラが吊り下げられて入っていた。左の角に取り出し口があつて、そこまでスライドさせるとレールが切れている。取り出し口にビンが出てくるが、それと同時に手錠のような輪っかが、ガチャンとビンの首を挟むので取出せない。

硬貨投入口に五セント硬貨を入れると、コーラを挟んでいた輪のロックが外れて、ビンを持ち上げると輪を押し広げて取り出せる仕組みであつた。初めのうちは、硬貨を投入してN君と自分が飲むための二本のコーラを買って持って行つたが毎回では金が続かない。当時はコーラ一本が、ガソリン一リットルに相当した。我々はそのコーラを取り出すのに何とかならんものかと考えた。

硬貨投入口を五セント硬貨が通過するとき、電気信号の接点がつなが

り電気が流れて、ピンを挟んでいる輪のロックが解除されることがわかった。硬貨にテープで紐をくつつけて投入口にゆっくり下ろしていくと、電気信号が流れてロックは解除されたが、二〜三回使うとテープがはがれて紐が外れ、硬貨が中へ落ちた。失敗である。

次にA君が、五セント硬貨の淵ぎりぎりに直径一ミリほどの小さい穴を開け、それに丈夫な細い紐を通して実験した。これは成功してN君が退院するまで、大量のコーラを手に入れることが出来た。

我々は見舞いに行くと、まずN君の棚においてあるその道具を持って階下へ下りる。そしておもむろに自動販売機に行き、片手に二本ずつのコーラを持ってくる。自分も喉が渴いているので立て続けに二本飲む、足りなければ何回でも持って来ればよいのである。N君は殆ど飲まなかったので棚に置いておく。我々のメンバーは、入れ替わり立ち代り両手に持つてくるので、我々が帰る頃にはN君の病室には、常に一〇本以上のコーラが並

んでいた。

しかし、不思議なことにも翌日になると誰が飲んだのか棚のコーラはきれいになくなっていた。N君を見舞いに來た誰かが飲んだのだろう位にしか思わず、別段気にも留めなかった。N君にも取り立てて聴くことも無く、我々は毎日コーラをただでたらふく飲んでいたのである。

Nくんが退院すると我々は、以前のように彼の家をたまり場として利用していた。そんなある日N君が打ち明けた、実はあのコーラの件は、病院側では当初から全てを知っていたのだという。N君の母親が、我々がせしめたコーラの代金を全て支払っていたのである。そのことはN君自身も退院するまで詳しくは知らなかったらしい。N君の母親とすれば、我々が毎日のように来てくれることが、唯一の楽しみにしていたN君のために、最後まで黙って見ていたようだ。

病院側としても、毎日のように不足分のコーラを大量に補充するが、そ

れに見合った硬貨が、極端に少ないのを不思議に思っただけの様子を伺っていた。すると以前から目をつけていた少年達が、次々に両手に抱えてもって行くではないか。

それは割と早い段階で発覚していたらしいが、N君の母親が病院側と話し合いをつけて、全て合意の上で見つめてみぬ振りをしていたと言うことである。そうとも知らずに我々は、毎日のようにコーラを水代わりに、贅沢に飲んでいたのであった。

今から五八年前、高校受験に失敗した少年六人のグループが、バイク事故で入院していたN君を病院に見舞った時のことである。